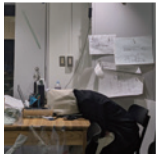


# 資源的アクセシビリティへの架構

国本春樹 能作研究室



敷地：東京都江戸川区篠崎町  
 用途：堆肥化施設+循環体験施設  
 模型：詳細模型 1/100

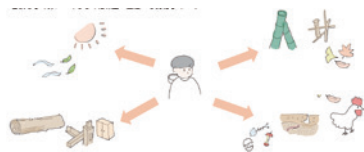


## ■地域資源へのアクセスの現状

大量生産、大量消費が当たり前となっている世の中で、環境問題に対する解決策の一つとして循環型社会を目指す動きがある。しかし、身近にある資源へのアクセスは現状活発には行われていない。資源へのアクセスには、資源の見える化、資源を活用するためのふるまいを身につける必要がある。そうした日常における資源へのアクセスを可能とするための施設を計画、提案する。



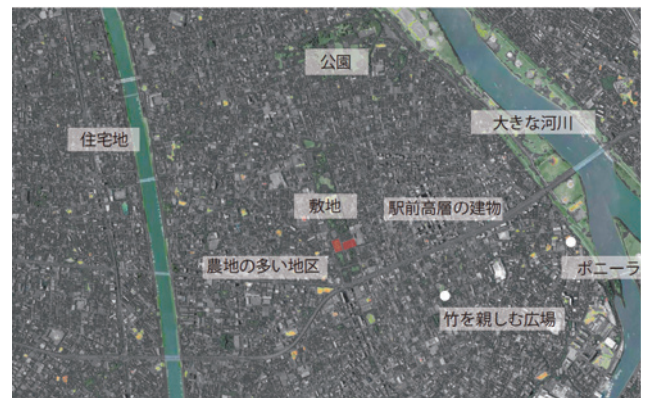
周囲の資源が見えていない



資源へのアクセスが可能

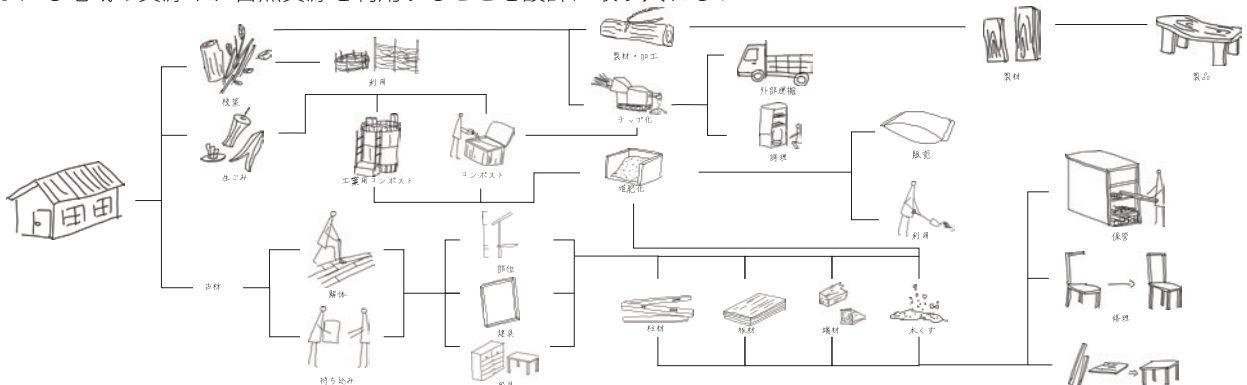
## ■計画敷地：江戸川区篠崎町

都内で一番街路樹が多く、自然資源に対する取り組みが多く行われており、緑地や農地も多く存在する。



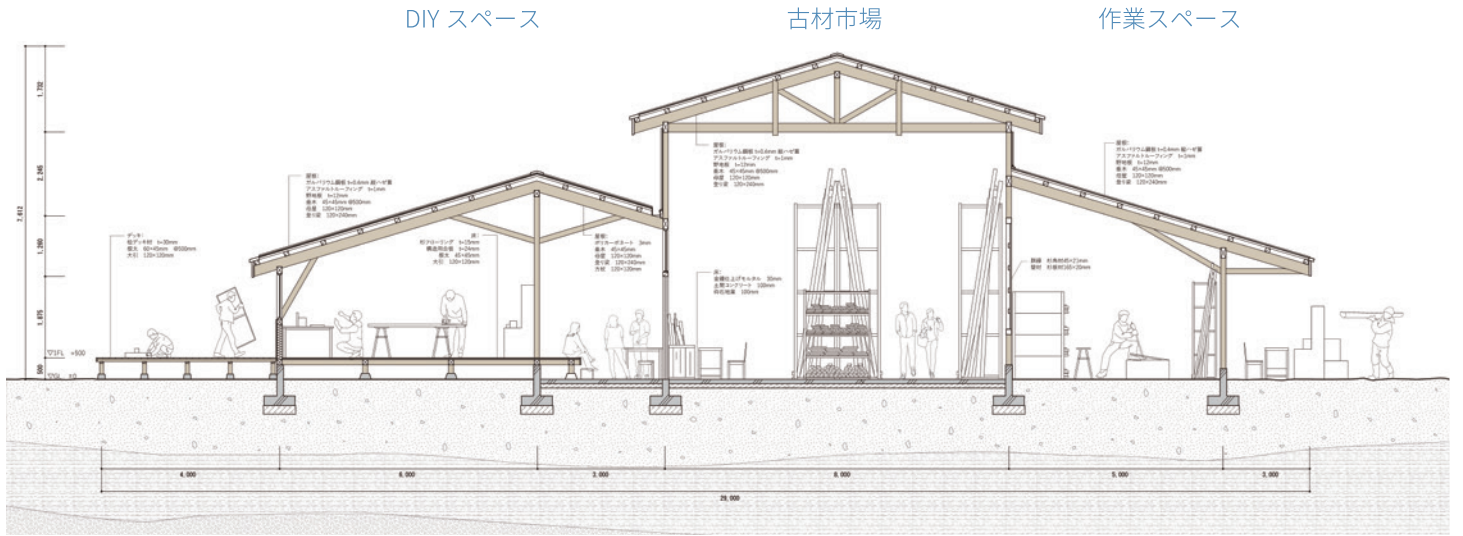
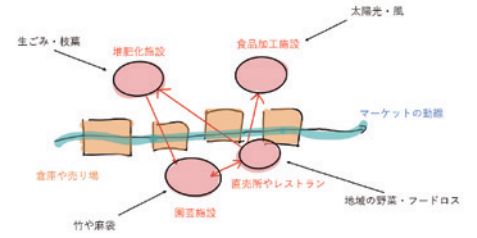
## ■施設内の資源循環フロー図

施設内における主に循環に用いられる身近な資源をフローにまとめる。これをもとに人のアクティビティやモノの動きから計画をする。このほかにも地域の資源や、自然資源を利用することを設計に取り入れる。



## ■古材市場断面図

アーケード状のメインボリュームをマーケット動線とし、その両側に DIY のスペースや解体修理の作業の空間を設ける。それにより買い物に来た人たちが、人や物の動きを感じ、体験することができる。各施設用途に対し環境や、配置の面から断面や屋根形状を計画していく。



## ■1階平面図



## ■工場断面図

堆肥化施設では地域の生ごみや剪定した枝葉を収集し大型の機械を用いて堆肥化する。次第に市民の生活の中にコンポストが定着することで機械は必要なくなり、施設の用途変更を行うことができる。その後の用途としては街路樹を利用した都市林業の拠点を計画する。

